

保護者の皆さま、本日はお忙しい中、進路説明会にご出席いただきありがとうございます。

本校では、年間2回の進路説明会を実施しております。今回1回目は、できるだけ早い高校受験の準備とスタートを切っていただくため、昨年度の入試状況をもとに担当より見通しを含め、重要な変更点等を説明させていただきます。私の方からは、進路決定に際しての基本的な考え方を4点の話をさせていただきます。

1つめ、進路については、最終的に生徒自身の手でしっかりと決めてほしい。

これからさらに、進路決定に関して思い悩むことが多くなると思います。家の人と意見が合わずに悩むことも出てくると思います。だからといって自分の進路決定から逃げてはいけません。単に進学できる場所に進学する。勉強や学校が嫌いだから就職するというのではなく、これからの長い人生を展望し、「自分は将来どのように生きたいのか」、「自分の特性を生かすにはどのような学校・職業を選べばよいのか」…というようなことを考え、家の人や先生の話の参考にした上で自分自身の進路を自分で決定してください。

2つめ、県立公立高校の推薦・私立高校の特待について、明日から学校生活を頑張っほしい。

県立公立高校の推薦には、本校では推薦入学者選抜基準があります。

そして、県立公立高校の推薦や私立高校の特待も最終的に校長の推薦が必要です。誰もが推薦を受けることができるとは限りません。

併せて、推薦や特待の人は、早めに合否が決まります。そのため、高校入学へ向けて卒業まで中学校生活がきちんとできる人でなくてはなりません。また、進学先での言動が後輩の進路にも影響をします。高校入学後も自覚を持った高校生活を送れる人でなくてはなりません。そのため、推薦や特待の希望者は、校長面接を行います。さらに校内推薦検討委員会で推薦や特待にふさわしいかどうかを慎重に審議をし、最終的に校長が推薦を決定することになっています。

推薦・特待を希望する生徒の皆さん、過去のことは問いません。明日から頑張っほしい。

3つめ、受検は団体戦です。学年全体で乗り切っほしい。

9年生にとっては、未知の体験で、大きさは違いますがみんな不安をもって過ごすこととなります。これはこれまで先輩もみな通ってきた道です。決して自分だけと思わないで、学年全体で乗り切っほしいと思います。

4つめ、保護者の皆様をお願いします。人生の先輩として助言をしてほしい。

子どもの進路は勝負ではありません。他の子どもと比較すべきものでもありません。「何が何でも〇〇高校を」と進学のための進学になることの無いようにお願いします。子どもの性格・学力・特技・興味関心、将来の希望、さらには、社会や家庭の状況なども考えながら、子どもが納得できるように人生の先輩として助言をしてあげることが大切だと思います。ご理解の程、よろしくお願ひいたします。

これで校長のあいさつを終わります。本日はよろしくお願ひいたします。

これから先の高校入試の動向についてです。

高校では、生徒の主体性が重視されています。させられている感・してもらっている感からの脱却が必要とされているのです。そのため、高校側が求める生徒を入学させるため、高校の入試制度も変わってくるということです。

私学においては、様々な学校で教育課程の改革が行われていますが、そんな中、県立公立の普通高校が特色化選抜を実施するようになった経緯をご説明しますと、文部科学省による調査では、全国の高等学校の数は、およそ4800校で、高校生の数は、295万人余りです。そのうちの約3700校が普通科で、全体の7割を占める217万人が普通科で学んでいます。今や、中学校を卒業した人の99%近くが高校等に進学をしています。

しかしながら、普通科の高校が抱える最大の課題は、生徒たちの学びへのモチベーション維持と言われています。高校全入時代にあって、一部の生徒たちには、意欲的な高校入学の理由が不足していると言われています。高校は義務教育ではありませんが、特に普通科高校は、中学校の勉強の延長になってしまいがちの状況にあります。専門学科ある高校は、実習や専門知識の授業も多く、入学後、否が応でも学び姿勢が変わりますが、普通科では、中学時代と同じような受け身で授業が進んでいく。さらにその姿勢のまま大学に入ると、高校までの受け身の学び方と大学で求められる主体的な学びとギャップが生じてしまう状況が起きています。

今、社会が求めている力は、前に踏み出す力(アクション)・考え抜く力(シンキング)・チームで働く力(チームワーク)なのです。それを踏まえ、高校生に求められている力は、主体性・課題発見力・実行力なのです。今の子どもは、「規律を守って、人の話はよく聞けれど、自分から進んで、課題を発見し、行動する力が足りない」と高校の校長先生方が言われています。普通科高校でこのような力を育むため、一部の高校で学校の特色を明確にし始め、4年が経過したところです。

高校卒業後のことまで考えて、学校を選ぶのは、多くの15歳にとっては難しいことです。しかし、今までのように偏差値で漫然と普通科に決めることが高校での受け身の学習姿勢をつくってしまうと考えられています。だからこそ、偏差値ではなく、やりたいことで学校が選べるように、「この高校では、こんなことができる」という風に普通高校が特色化を示してきているのです。自ら主体的に選んだ学校なら、生徒達も主体的に学ぶ姿勢に変化していくはずです。そのため、高校では、体験入学や説明会等が頻繁に行われるようになりました。多くの学校の子どもたちは、学校を選ぶため、主体的に参加をしていると思います。

ここ、中央中学校では、このことを踏まえて、2学期より子どもたちが主体的に学べるように授業改善等を行っています。目指す子どもの育成をめざし、特に生徒の主体性を育むため、小中一貫コミュニティスクール中央学園で連携をし、シティズンシップ教育を推進しています。

一例として、ジュニアボランティアがあります。地域貢献のボランティアとして、田熊山笠・元気フェスタ東郷・南郷まつり・いせきんクエスト・小中合同挨拶運動・小学校子ども大学の協力をここにいるたくさんの9年生が行ってくれています。是非、その主体性と実行力を高校でも発揮してくれることを期待しているところです。

最後になりましたが、保護者の皆様、子どもさんの進路を決めるにあたり、ご家庭でしっかり話し合い、納得の上で受験させてやってください。

高校受験以外での進路をお考えの場合は、学校もできる限りの情報提供をさせていただきたいと思っておりますので、ご相談ください。